

ServGate VPN Strategy

ユーザー指向の製品開発を徹底し サーブゲートがセキュリティ市場に革新



サーブゲートCEO
ブルース・ヘンドリックス氏

新CEO、ブルース・ヘンドリックス氏を迎え入れた米サーブゲートが、セキュリティ市場に旋風を巻き起こそうとしている。その中核となるものが「ユニバーサルプラットフォーム」。高速処理と柔軟な機能拡張を兼ね備えた新プラットフォームの登場によって、セキュリティ製品の未来像が具現化される。

「SG2000シリーズ」をはじめとするハイパフォーマンスなファイアウォール・VPNアプライアンス製品を開発・販売する米サーブゲートは、新アーキテクチャ「ユニバーサルプラットフォーム」で、セキュリティ市場に革命を起こそうとしている。

その陣頭指揮を執っているのが、今年6月、米サーブゲートのCEOに就任したブルース・ヘンドリックス氏だ。

ヘンドリックス氏は、シリコンバレーにおいて電子商取引、およびセキュアなネットワーク処理の技術開発に関するパイオニアとしてその名を馳せた人物。1995年から99年の間、IPネットワーク上における金融およびクレジットカード決済システムを提供するPayment-Netを創立し会長兼CEOとして活躍、オンライン決済のデファクトスタンダードを生み出した。2000年にヘンドリックス氏は同社を10億ドルで米ベリサインに売却したが、そのテクノロジーはセキュアな電子商取引を支えるものとして、現在でも幅広く活用されている。

高度なセキュリティを要求される金融システムの開発で培ってきた経験に加え、常に「ユーザーの視点に立ったモノ作り」を信条としているヘンドリックス氏のCEO就任に伴い、サーブゲートは、これまで以上に「ユーザーが真に求めるセキュリティ製品の開発」に軸足が向けられるようになった。

ヘンドリックス氏が

CEOに就任して最初に行ったことは、数多くのセキュリティのプロフェッショナルや企業のCTO達との対話だった。「今、ユーザーはセキュリティ製品に何を求めているのか」。企業に対して徹底したヒアリングを行った結果、セキュリティ製品が抱える数々の課題が浮き彫りとなった。

1つは、市場には多様なセキュリティ製品が登場しているが、明確な差が見受けられず、どれを選択していいかわからないこと、そしてもう1つがファイアウォールやアンチウィルス、さらにDoS攻撃からの防御システム等、企業がセキュリティを確保するためのハードやソフトウェア等が、それぞれ個別に提供されていることである。

本来であれば、これらのシステムが一体で提供されることで、はじめて企業は完全なセキュリティ環境を構築できる。しかし、必要とする機能ごとにハードやソフトウェアを用意しなければならぬため、多大な初期コストが発生するだけでなく、運用管理面での負荷も莫大なものとなっている。

また、現状ではファイアウォール、VPNアプライアンス製品の競争の焦点は高いパフォーマンスの実現にあてら

新たにラインナップに加わったEdgeForce



れている。多くのプロダクトはASICを搭載することでハードウェアによる高速処理を実現しているが、その一方で、従来のPCベースの製品と比較して機能拡張やアプリケーションの追加に際して、柔軟性が犠牲となっている面も否めない。

ヘンドリックス氏は、「これまででは、ユーザーがファイアウォール、VPNアプライアンス製品を購入するにあたって、パフォーマンスの高さが最大のポイントだった。しかし製品に対するニーズは大きく変化している。高速処理に加え、ワンボックスでさまざまな機能を実現するセキュリティシステムが求められている」と語る。こうした課題を解決するのが、サーブゲートが新たに提供する「ユニバーサルプラットフォーム」だ。

「速さ」と「柔軟性」を同時実現

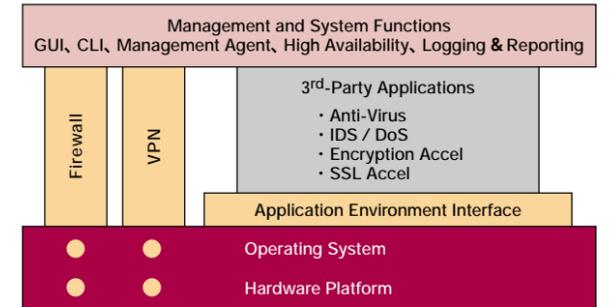
ユニバーサルプラットフォームはセキュリティ製品に求められる「パフォーマンス」と「多機能性」の両立を実現するものである。

パフォーマンスの部分ではIntelの最新のネットワークプロセッサを採用するとともに、ファイアウォール、VPN処理に特化した専用OSを搭載することでワイヤースピードを実現している。

また、アンチウィルスや侵入検知等の付加機能の追加については「Application Environment Interface」を搭載しているため、サードベンダー等が開発した各種ソフトウェアとの容易な連動も行える。ここで鍵となっているのが「ターンキーソリューション」だ。付加機能となる各種アプリケーションを稼働させたい場合には、「ソフトウェアキー」を入手し、既存システムにアンロックするだけで簡単に行えるので、ハードウェアを買い換える必要がない。

すなわち、ソフトウェア型製品が持つフレキシビリティとハードウェア型が提供する高いパフォーマンスを実現するのがユニバーサルプラットフォームなのだ。

ユニバーサル・プラットフォーム・アーキテクチャ



ユニバーサルプラットフォームのコンセプトに基づいた製品の第1弾となるのが、9月から発売予定の「EdgeForce」だ。

同製品は、中小企業向けのファイアウォール・VPNアプライアンス製品で、オプションの「パフォーマンスモジュール」と「アプリケーションモジュール」の追加によってハードウェアの変更なしに高速化とアプリケーションの追加を可能とする製品。

ベースユニット(US \$900)では最大75Mbpsのスループットと20MbpsのVPN通信、3DESによる250IPsecトンネルを実現するが、パフォーマンスモジュールの追加によって、最大150Mbpsのファイアウォールスループットと、40MbpsのVPN、1000IPsecトンネル通信が可能となる。また、アプリケーションモジュールを搭載することで、アンチウィルスやURLフィルタリング、Webキャッシング等のアプリケーションも利用できることになる。

キャリアからSOHOまでカバー

サーブゲートではキャリア向けのハイエンド製品からユーザー拠点に設置するローエンド製品まで幅広いラインナップを揃え、セキュリティのトータルベンダーとして拡販を進めていく構えだ。

ハイエンド製品にはキャリアグレードのパフォーマンスを実現する「SG2000シリーズ」がラインナップに揃えられている。ギガビットインターフェースを搭載し、2Gbpsのスループット、5万のファイ

アウォールセッションをサポートするほか、2万VPNトンネルを可能としている。

SOHO向けのローエンド製品が「SG100」で、約295ドルとリーズナブルな価格を実現しながらも7Mbpsファイアウォールスループット、1MbpsのVPNスループットと10IPsecトンネルの構築を可能としている。

こうしたハイエンドからローエンドまでのワンストップソリューションを活用することで、キャリアはマネージドファイアウォールやインターネットVPN等、収益性の高い新サービスの提供が可能となる。

ヘンドリックス氏は、「日本は世界の中でも最もブロードバンド化が進行している国の1つで、今後、これまで以上にビジネスだけでなくエンターテインメント等あらゆる分野でセキュリティの重要性が増していく。そうした中で、高いパフォーマンスに加え、ワンボックスで多様なセキュリティニーズに対応する私どもの製品群が活躍する場はますます増えていくだろう」と、国内市場におけるサーブゲート製品の拡販に意欲を示している。

日本総代理店

macnica

マクニカ ネットワークス カンパニー
株式会社マクニカ
<http://www.networks.macnica.co.jp/servgate>

お問い合わせ先

サーブゲート 村岡
TEL : 045-470-6256

Email : sg-sales@support.macnica.co.jp